

日本動物看護学会

第4回大会

1997年 6月22日(日)

大阪大学吹田キャンパス

日本動物看護学会第4回大会

会期

1997年 6月22日 PM 1時 ~ 5時

会場

大阪大学吹田キャンパス 人間科学部5階（階段講義室）
吹田市山田丘1-2

参加費

正会員 2,000円 (年会費3,000円で当日入会も可能)
非会員 4,000円 懇親会費 2,000円

懇親会会場

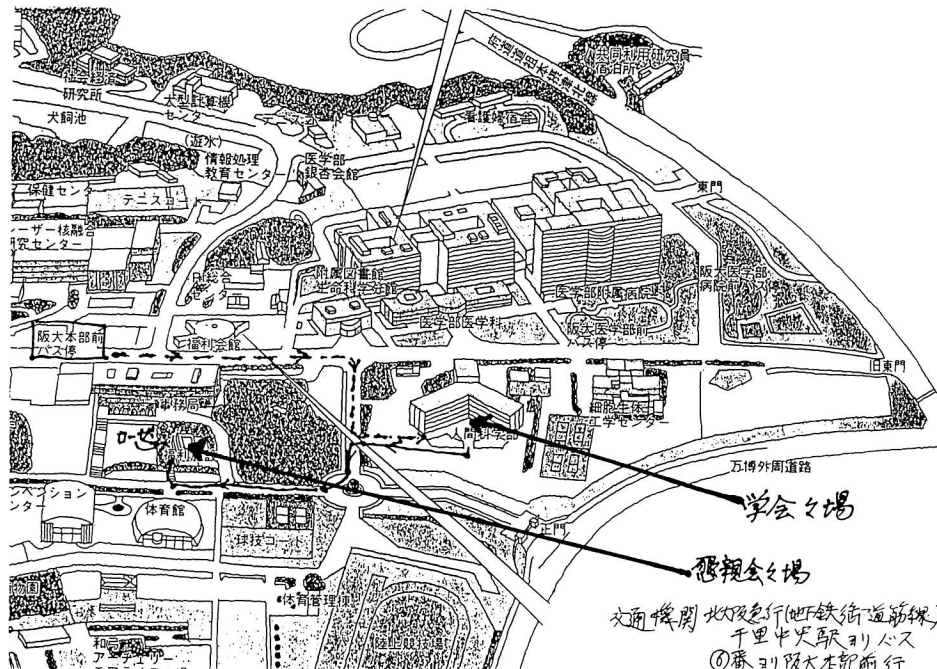
ROSEN（ローゼン）大阪大学店

学会連絡先

日本動物看護学会事務局 〒132 東京都江戸川区松江3-11-17
桜井動物病院内
電話 03-3652-9101
Fax 03-3656-9288

大会連絡先

大阪大学 〒565 吹田市山田丘1-2 06-879-8055 (和 教授室)
ROSEN 06-876-0519



大会日程（プログラム）

1：00 会長挨拶

日本動物看護学会会長 今道 友則

1：10 事務局挨拶

日本動物看護学会事務局長 桜井 富士朗

1：20 大会長挨拶

大阪大学教授 和 秀雄

1：30 教育講演 I

動物看護師のための「動物心理学入門」

慶応義塾大学文学部教授 渡辺 茂

座長 和 秀雄

(大阪大学)

2：00 教育講演 II

野生動物から「サルの性・ヒトの性」

大阪大学人間科学部教授 和 秀雄

座長 渡辺 茂

(慶応義塾大学)

2：50 休憩 コーヒーブレイク

3：00 「日本動物看護師の会」紹介及び経過報告

日本動物看護師の会会長 石田 千春

3：20 シンポジウム

「動物看護師会の活動報告及び現状」

座長 岩田 千代蔵 (大阪動物看護学院教授)

石田 千春 (日本動物看護師の会会長)

桜井 富士朗 (桜井動物病院院長)

桑野 悟 (動物病院モルム院長)

①「動物病院から」

あいち動物病院動物看護師 吉村 亮子

草津犬猫病院動物看護師 松尾 まき

5：00 大会終了

5：15～7：00 懇親会 (ROSENにて)

日本動物看護学会第4回大会に寄せて

日本動物看護学会長 今道 友則

日本動物看護学会の大会は東京で開催されていましたが、兼ねてより、関西地区での開催の希望が強く、此の度、第4回大会を大阪大学で開催することになりましたことを会員の皆様と共に心からお喜び申し上げます。大会長の和教授（大阪大学）と岩田教授（大阪動物看護学院）をはじめ諸準備に当られた皆様に深く感謝致します。

動物看護学は専門職としての動物看護師の学問的、技術的並びに倫理的基礎であるばかりでなく、動物園の飼育技術者、実験動物技術者、畜産技術者や獣医師にとっても必要な学問であり、動物心理学等とも関連のある学際的性格のものであります。

本学会は、先ず、動物看護師の習得すべき学問技術としての動物看護学を確立し体系化するために、専門的立場からのみならず、社会的要請と将来の発展を考慮して動物看護に関する諸問題の啓蒙と、関連する各学問分野の諸知識を導入研究することから活動を始めました。

今大会では、教育講演として動物心理学について渡辺茂慶大教授（本学会副会長）サルの性とヒトの性に関して和秀雄阪大教授（第4回大会委員長）に御講演戴くと共に、日本動物看護師の会石田千春会長より動物看護師の会の活動報告を伺い、さらに動物看護師の活動に関するシンポジウムで動物看護師の方々から職務に関する現状報告と討論を行うことが計画されています。参加会員の活発な討議を期待致します。

なお、次回には動物看護師養成のためのカリキュラムの討議を行う計画であります

動物看護は動物愛護心の実践であります。人の立場からだけでなく、動物の立場にも立って考えるべき問題であり、人と通ずる言葉を持たぬ動物の各種の要求や快、不快その他の細やかな動物の心理状態を動物の行動や情緒（emotion）、鳴き方（vocabulary）によって推測判断して適宜に対処できるようになることが必要であると思います。この方面の動物行動心理学的手法によって、先ず伴侶動物の代表である犬猫について、video、録音、超音波その他の手技を駆使して客観的な観察と実験を重ね、その成果を逐次他の動物に及ぼすことが必要と思います。

また、このような面ではサルの行動心理の研究にも学ぶべき多くのものがあると思います。近い将来、会員の皆様から、このような問題のみならず貴重な体験や観察、実験の報告が本学会で発表されることを願うものであり、それらの積み重ねによって動物看護学が確立され発展するものと確信しております。

「動物の心をどう考えるか」

—動物看護学は飼い主の擬人観とどうつきあっていくべきか—

渡辺茂（慶應義塾大学・動物心理学）

1) 擬人観の起源

動物の行動を人間の行動に模して考える擬人観の起源は大変に古いと考えられる。洋の東西を問わず、民間伝承には多くの擬人化された動物たちが登場する。このようなものの見方はなにも古代の人間に限ったわけではなく、現代人も自動車やコンピュータなどのあきらかに生物でないとわかっているものにたいして「今日は機嫌が悪い」「今日はよく働いてくれた」といったものの言い方をする。これらのことは擬人的なものの見方は人間のもつ自然なものの方であることを示している。生物ですらないものにまで擬人的な解釈をくだしていることは、擬人観が人間にとって如何に「居心地のよい」解釈であることを示しているだろう。

2) 人間の心を研究する心理学は動物をどう扱ってきたか

では、人間の心をその研究対象とする心理学では動物はどうあつかわれてきただろう。もし、人間の心と動物の心がまったく違うものだったら、心理学が動物の研究をしてもナンセンスなことになる。また、まったく同じものだとしたらわざわざ動物の心の研究をする必要もない。心理学が動物研究をおこなうのは、人間とそれ以外の動物に普遍的に見られる機能と、人間にだけみられる機能を比較してゆくことによって、人間の心の発生を研究しようとするからである。

実際、このような動物の心の研究はダーキンの弟子であったロマネスに端を発している。しかし、ロマネスの研究方法がまさに擬人観にもとづくのもだったのである。つまり、私たちは自分たち人間の心は理解できても動物の心を直接覗くことはできないので、動物と人間が同じような行動をした時には、心も類似したものであろうと類推するわけである。人間の心を既知のものとして、動物の心をそこから探ろうとしたわけである。

ところが、その後の心理学はできるだけ簡素な原理によって動物や人間の行動を説明しようということになっていった。つまり、見方が逆転して、単純な系である動物研究から一般理論を導出し、それを人間にあてはめようとするようになったのである。この場合も人間と動物の連続性がその前提になっていることをいうまでもないが、これは、いわば人間の擬動物観である。

しかし、その後、グリフィンら動物行動学者たちの「作業仮説としての動物の意識」という問題提起もあり、現在の時代精神としては人間以外の動物に人間類似の心を認めることは心理学者にとってそれほど抵抗がないものになっているであろう。

3) コンパニオン・アニマルにおける擬人観の意義

つぎに飼い主がコンパニオン・アニマルをどのように見ているかを考えよう。ここではコンパニオン・アニマルの存在意義を改めて論じることはしないが、コンパニオン・アニマルがコンパニオン・アニマルとして機能するためには飼い主の擬人観が大きな役割を果たしていることはいうまでもない。つまりコンパニオン・アニマルは共にくらす人間のなかまの代替なので、代替として機能するためには当然人間を模した見方が

なくてはならない。このことは、コンパニオン・アニマルが実験動物や経済動物と全く異なる点である。

むしろ、飼い主とコンパニオン・アニマルの間では言語による人間同士のコミュニケーションより意志伝達のはるかにあいまいなため、飼い主の自由な解釈が可能であり、かえってより都合のよい解釈のできる仲間とみることもできる。

もし、擬人観が科学として正しくないとしても、飼い主の擬人観を否定してしまっ
てはコンパニオン・アニマルとしての意義は半減すると考えられる。コンパニオン・アニマルの社会的機能を考えれば、飼い主の擬人観はむしろ積極的な価値をもつものとして評価されなくてはならないだろう。

4) 科学としての動物看護学は擬人観とどうつきあうべきか

とはいえ、動物看護の立場からは、飼い主の擬人観を無制限に受け入れることはできない。第一にそれはコンパニオン・アニマルそれ自体にとって有害な場合があるからである。飼い主の無原則的な擬人観から生まれる動物のあつかいは、人間の代替であるコンパニオン・アニマルにとっては生態環境を無視したものになりがちである。これらの問題は、飼い主の動物の生態にたいする理解を深めることによって適切に指導されなくてはならない。第2にアルファ・メール症候群にみられるような間違っ
た育て方による問題行動の発現がある。これは、場合によっては飼い主とコンパニオン・アニマルの間の問題にとどまらず、第3者をもまきこむ恐れがあり、飼い主への適切な啓蒙活動が必要になる。

もちろん、飼い主のコンパニオン・アニマルに対する擬人観を非科学的として全面否定することが正しい対処ではなく、飼い主がコンパニオン・アニマルにいわば「美しい誤解」をもったままで、飼い主、コンパニオン・アニマル双方に疾病や問題行動がないようにコントロールするのが、動物看護学に期待されることであろう。

サルの性・ヒトの性

和 秀 雄 （大阪大学・人間科学部）

私たちヒトは、他の動物たちと異なって、「自然の摂理」からはずれて
どんどん不自然になってきた動物です。その私たちが属する「霊長目」は
170～200種（分類学者によって異なります）に分類されており、
ヒトとヒト以外のサルの仲間は、形態学的にも生理学的にも非常に似ている
ところが多いのは事実ですが、異なっているところも数多く見られます。

今日は、とくに「性」の問題に焦点をあて、それぞれの一生を追いながら、
ヒトとヒト以外のサル類の類似と相違について考えてみたいと思います。

皆さんは、性に関連する以下のようなことをどの程度理解していらっしゃる
でしょうか？ 私の話を聞く前に、それぞれお考え頂けたら幸いです。

1. 出産と子育ては「本能的」なものだろうか？
2. 「成熟する」「オトナになる」ってどういうことだろうか？
3. 「思春期」はサルにもあるのだろうか？
4. 「月経」があるのはヒトだけ？
5. 「排卵現象」と「発情」の関係は？
6. 動物の性行動は基本的に生殖につながる？
7. インセスト（近親交配）回避のしくみは？
8. 女房と畳は新しいほどいい？
9. 「親離れ」「子離れ」
10. 生殖と栄養（とくに体脂肪量）の関係

「日本動物看護師の会」経過報告

石田 千晴

昨年1月に設立し、早一年半がすぎました。私達の会は、動物看護師による看護師のための会であり、看護師により運営されています。年2回のニュースレター、4回のミニレターでは、色々な情報をお知らせしたり、投稿による会員の意見を記載し、コミュニケーションを計っております。

また、年2回のセミナーでは、浅利先生、石田先生、奥田先生をお招きし、東京、大阪にて「解剖学」、「猫の感染症とワクチネーションプログラム」、「歯科学」について講演をしていただきました。セミナーの当日には、自由参加で意見交換の場を設けて、積極的に動物看護師の仕事についてディスカッションを行い、動物看護師としてより成長できるように自ら努力をしております。

この他に新しい試みとして、院長の許可をえて病院を動物看護師に解放していただき、見学や気楽にお話などをする「Open Animal Hospital」を始め、会員同士の輪を広げております。

そして、世界動物看護師協会（IVNTA）の仲間達に、日本の現状を伝え、世界の先輩動物看護師達のように獣医療のチームの一員として、認めていただけるように頑張りたいと思っております。

日本動物看護師の会会員VTとしてのルール

1. 常に動物病院で働く意義を考え、誠実で良識ある一社会人であること。
2. 獣医師や他の仲間と和合し、ともに高きを目指そうとする向上心を持つこと。
3. 動物に対して愛情をもって看護にあたり、獣医師とクライアントの円滑な関係を保つためのパイプ役となること。

動物看護師の役割

— 動物病院からの報告 —

動物看護師 吉村 亮子

動物病院での看護と動物園や研究所でのそれを比べてみたとき、一番の違いは飼い主の存在です。動物病院での動物看護は獣医師と動物看護師とのよい連携、そして何よりクライアントの理解と協力がなければ成立しないからです。治療や看護の必要な動物が病院にくる場合は、必ず飼い主（以下クライアント）が存在します。クライアントはその傷病動物の所有者で、言葉を話す事ができない動物の代弁者でもあります。そしてその動物に対する治療法もクライアントの意志に左右されます。病院が傷病動物に対してできる事は、その動物が傷病からより早く立ち直り、健康的な生活ができるようになる手助けをすることですが、そのために必要なファクターとしてクライアントの精神的、経済的負担も無視することはできないでしょう。そんな状況の中で動物看護師はどんな役割を担っているかを考えてみると、実は非常に複雑で、重要であることが感じられます。

まず1件のクライアントが来院した場合を例にとってみましょう。クライアントが病院に来たとき1番最初に接する人が受付の看護師です。クライアントは具合の悪い動物を抱えて不安になっている事が多く、このような時看護師はまずクライアントをリラックスさせる事が重要です。クライアントが不安や疑問を感じてしまうと動物はその感情を鋭く察知し、病院やスタッフに対して警戒心を強くします。そのようなストレスを動物にかけさせないためにも、クライアント自身が不安を感じないようにフォローをする必要があります。

診察室内では看護師が問診と身体チェックをします。問診ではクライアントが訴えたいことを看護師は的確に聞きだし、もれなく獣医師に伝えなければなりません。またクライアント自身が気がついていない動物の異常もチェックしておく必要があります。この時看護師ははじめて動物に接するわけですが、動物の性質を理解し、警戒をさせずリラックスさせるように心がけます。そして獣医師の診療です。診断治療は獣医師の仕事ですが、実際の治療には看護師が補佐をすることが多くあります。獣医師が治療し易いように器具や用具を整え、獣医師の指示の元に実際に治療を施す場合もあります。そして最後に受付にて自宅での管理介護の指導と会計を行います。

こうしてみると看護師は傷病動物以外にクライアントとも多く接している事がわかります。看護師はあるときは獣医師の立場に近くなってクライアントの治療に対する理解を得、ある時はクライアントの立場に近づき精神的な苦痛を少しでも和らげてあげるというムードメーカー的な要素を持っています。そして、もし看護師がいなかった場合は、獣医師のみでこれらのたくさんの業務をこなさなければならず、高度化する診断治療に必要な獣医師各々の貴重な時間を割かれ、

結局医療の質に影響を及ぼしかねません。よって、看護師が看護に関する深い知識を身につけスタッフとして動物病院に存在する事は、その病院の医療の質を高め、結果として本来の目的である動物看護の質の向上につながると言えるでしょう。このような事実はテーマである動物看護とはかけ離れているようにも思われますが、実際にはこのようなバックグラウンドがあってはじめて動物の看護が存在しているというのが動物病院の看護の実態です。これからの獣医医療の中で、看護師が如何に知識を身につけ、看護にあたっていくかは、病院がクライアントと動物にどのような医療提供ができるかに大きく影響する事と思われます。看護師自身の意識の向上と、知識を得るための場が今後益々必要となるでしょう。

あいち動物病院 愛知県江南市赤童子町桜道62
TEL 0587-53-5755 FAX 0587-53-6621

アニマルヘルステクニシャンとして私が目指すこと

— 動物病院からの報告 —

動物看護師 松尾 まき

私はアニマルヘルステクニシャン（以後AHTと省略します）になって3年目になります。現在勤務している病院は、獣医師4人とAHT4人、アルバイト1人の9人で、犬・猫・鳥・エキゾチックアニマル・野生動物の診療を行っています。

現在日本では、AHTの仕事や役割は各々の病院によって全く異なります。だいたいの事は共通していると思いますが、例として私が現在行っている仕事の内容を述べてみます。大きく分けると、受付業務、診療助手、事務作業、在庫管理、雑作業に分けられます。先ず受付業務としては、カルテの出し入れ、電話の対応、飼い主への対応、医薬品業者との対応、治療費の精算、薬の調合等をしています。特に担当は決めておらず、その時近くにいる者が対応しています。私が電話の対応時に困るのは質問を受けても自分が答えられない場合です。そのような場合は院長にどう答えるべきか聞かなければなりません。私が困った電話での質問の一つに、猫の前肢の爪を抜く手術をしたいが、それによって猫に悪影響があるかどうかというものでした。

初めてこの質問を受けた後、自分流の答え方のパターンを考えたので2回目以降は答える事が出来ましたが、もっと色々な知識を増やさなければと痛感しました。病院内に置かれている商品（ノミ取りスプレーやシャンプー類等）についても、その効果や使用方法だけでなく、その商品はどんなものであるかを具体的に飼い主に説明出来るようにしておかねばなりません。自分自身が理解していない物を飼い主に勧めてはだめだと思います。次に診療助手についてですが、動物の保定は、飼い主に頭の方を持ってもらい後軀の方をAHTが持つという方法をしています。AHTが一人で保定する病院が多いと思いますが、確かにAHTが一人で保定する方法が治療しやすいと私は思います。なぜなら、飼い主の中には自分が飼っているながらもセーブ出来ない人が大勢いるからです。保定については練習が大切ですが、動物のタイプや性格を知ること必要だと思います。経験をすればする程上手くなっていくと思います。そして、治療の準備と後始末、手術の準備と後始末、手術時の助手、レントゲンの現像、検便や検尿、血液検査、入院及びホテル預りの犬の散歩（一日3回しています）と食事の世話等があります。手術時の助手は、器具を渡す役としてつくくらいで、麻酔管理やモニタリング、点滴のチェック等は獣医師が担当します。しかしこれらの中にも少なくともモニタリングや点滴のチェック等はAHTにも経験と必要な基礎知識があれば担当出来る範囲であると思います。実際そうしている病院もあります。検便や検尿、血液検査は、その結果によって出てくるデータをもとに治療方針が決まるので責任の重い役割の一つです。病院で預っている動物の健康チェックはAHTの仕事

だと私は思います。特にストレスに弱い子は、隣の部屋にどの子を入れるかまで考えています。こういった部分ではAHTとしての能力を十分に生かせると思います。次に事務作業ですが、ワクチン管理、レントゲンフィルムの整理、カルテの整理、飼い主教育のためのパンフレットやポスター作成等をしています。ワクチン接種予定日を過ぎても来院して来られないクライアントにお知らせの葉書を出しています。この作業はかなり時間を取られますが、ワクチン接種率は確実にアップしています。飼い主教育はこれからももっともっと重要になってくる部分です。獣医師とは立場の異なるAHTから見える部分というのがあるはずですが。飼い主と一緒に私達AHTも学ぶ事はたくさんあると思います。次に在庫管理ですが、医薬品、処方食、消耗品、商品の注文と管理、納品書のチェックと整理はすべて任されています。特に薬と処方食のチェックは毎日しなければなりません。在庫がないというのは許されない事です。病気の治療で他のフードは食べられないという患者がいるのに処方食がないというのは防がなければいけません。薬品をチェックする事で、どこにいつも置いてあるかを覚える事が出来ます。これはエマージェンシーの時に役立ちます。最後に雑作業ですが朝の清掃、タオル類や白衣の洗濯、昼食時の用意と後始末、備品の買い物等色々あります。フィラリア予防シーズンの忙しい時期は、いかに時間を作ってこれらをこなすかが大変です。以上がだいたいの流れです日本ではAHTは無資格で働いています。まだまだ専門職の扱いは受けられません最近ではAHTの専門学校もどんどん出来ていますし、テレビで取り上げられる事もあります。けれども病院によってはトリマーだけれど治療の助手もするとか、アルバイトとして働きながら覚えていくとか、専門学校を卒業した者のみとか、求められるAHTのタイプは色々なのが現状です。私はAHTという仕事が好きだし、自分の仕事にプライドを持っています。まだまだ新しい職種の一つなので、努力すればする程、頑張ればその分、形となってくるものが多いと思います。私の中には理想のAHT像というのがあります。少しでも早く近づけるように自分自身に厳しく、向上心を失わないようにしたいと思っています。AHTとしての自分をレベルアップする事が、今のAHTの地位をアップさせることにつながると思います。明日からもっと優しい心で生き物すべてに接していこうと思っています。

草津犬猫病院 滋賀県草津市野村3-18-11
TEL 0775-64-1232